

山口県萩市「萩まちじゅう博物館」視察報告

実施期間：令和5年8月29日（火）～8月31日（金）

行程：※8月29日は移動日

8月30日 AM 萩博物館にて聴き取り及び近隣の現地視察（案内付き）

対応者：萩市商工観光部萩まちじゅう博物館推進課

NPO 萩まちじゅう博物館 理事長

8月30日 PM 城下町地区及び堀内及び平安古伝健地区の現地視察

8月31日 AM 浜崎伝健地区の現地視察

【萩の特徴】

- ・明治以降の大規模な開発がなく、空襲もなかったことから、昔の景観がそのまま残っている。江戸時代の地図がそのまま使える町。
- ・萩には萩城跡や武家屋敷、維新で活躍した人々の旧宅など、多くの文化財と史跡が残っている。
- ・長門峡などの自然景観、祭礼などの文化遺産などが保存継承をされており、登録文化財が220件ある。
- ・計4つの伝建を持っており、京都市と並んで全国の市町村で最多。

【萩の課題】

- ・萩を象徴する土堀と夏みかんの景色、古い町家が続く町並み、松林が都市化の波で徐々に失われた。
- ・少子高齢化による担い手（祭礼などの伝統行事など）の不足。
- ・国宝や重要文化財、地方の登録文化財などは手厚い支援があるが、未指定や民間のものは失われている。

【課題解決のためのまちじゅう博物館】

- ・萩の価値が市民や行政、この地を訪れる人々を通じてより広く共有され、町の保存活動へ展開していくことが必要。萩に愛着と誇りを持ち、来訪者を迎える市民とそこに引き付けられる人々が行き交う、持続可能なまちづくり、観光地づくりを行うための博物館。
- ▶市民活動による再発見「おたから」市内に広く存在する文化財、それから自然景観など。「おたから」を保存展示して、町全体が屋根のない博物館とみなす萩町博物館の取り組み。
- ▶市民と行政の協働で開始。2004年に始まった取り組みで、エコミュージアムの考え方をもとに、参考にして取り組んできた。

【まちじゅう博物館】

基本理念：萩のお宝を生かした協働によるまちづくり、観光作り。

- 1、お宝の再発見
 - 2、保存活用
 - 3、お宝を生かした経済活動の推進
 - 4、お宝を生かす人材育成
- ・中核施設：萩博物館（まちじゅう博物館と同時開館、2004年）、萩明倫学舎（2017年開館、日本最大級の木造校舎旧明倫小学校の改修整備）市民協働で運営

- ・博物館の管理運営：NPO まちじゅう博物館：2004 年 6 月。会員数が現在約 200 名程度。実務的なところは行政が参画をして、作った組織。博物館の管理の委託を受けてやっている。
活動内容は館内の受付、展示物のガイド、お土産ショップ・レストランの運営、その他、ボランティア：ワークショップ、歴史の勉強会
- ・文化遺産活用事業：平成 25 年から文化庁の補助。地域のおたからを市民と一緒に発見し、萩おたから総会（市民の会）を開催し、おたから認定する。おたからを巡るツアー：おたからマップ。ほぼ市内全域、それぞれの地区で作成。25 種類。

【地域博物館】

- ・浜崎地区の旧山村家旧山村家住宅。運営は地元の浜崎しっちゃん会（市民の有志）。

【課題】

- ・「おたから」を発見したが、その後の適切な管理ができていない。
- ・次世代に継承する仕組み作りと世代交代。NPO の中身は 20 年前と変わっていない。
- ・官民協働の取り組みの一層の推進。
- ・観光などの各産業の連携。民間活力による経済活動へのシフト
※ボランティア一辺倒ではなく、経済活動にも積極的に結びつける。

【質問】市長部局であることについて

市長が相当なリーダーシップをとって、まちじゅう博物館を進めることになり、文化財や生涯学習、スポーツなど、ほとんど市長部局に持ってきた。市長がまちづくりの一環としてやるので、市長部局ということになった。新しい歴史まちづくり部をつくり、その中に都市計画、景観などを入れた。歴史を守りながらまちづくりを進めていく基本的なポリシーのもと、強力なリーダーシップでやってきた。教育委員会には学校教育ぐらいしか残さなかった。

【質問】まち博での学芸員の役割は

NPO の班活動に関して、助言とか、指導をしてもらいながら、資料整理をしている。ただ、学芸員は日々忙しいため機能しきれていない。まちじゅう博物館や「おたから」の学芸員による調査研究は進んでいない。

歴史が好きという NPO の人たちが、学芸員の専門的な研究に入っていけない部分もある。手伝いできることはやりたいと思うが、学芸の専門的な領域に入っていくことはなかなか難しい。

【質問】市民協働の課題

曲がりなりにもうまくいってきたが、世代交代に課題がある。また管理運営方式について、有償であるけれども基本ボランティアで仕事ではないというところに、市が施設管理者に求めるお客様へのサービスのレベルに課題がある。観光地同士の競争っていうのも激しくなっている。管理委託を民間のノウハウでサービスを提供していくことも考えるが、萩ではそういった企業がない。市民の方やボランティア意欲に頼ってやってきたが、考え直す時期にきている。